

はじめるこころ

Vol.51

令和3年（2021年）3月

まいにち学校  まいにち街  の中 こどもの笑顔につなげる

この情報紙は、保育所・幼稚園・小中学校の保護者をはじめ、広く市民のみなさんに、身近な人権教育の話題を知っていただくため、市民参加方式で編集したものです。

「ご家庭で子どもさんと、あるいはご近所や職場のかたと、こうした話題にふれて、語り合っていただければと思います。」

らいとぴあ21

今年度も開催！

「かやのお宝人権まつり」

かやのお宝人権まつりは、楽しさと人権・多様性などを共存させる工夫を続けて来たおまつりです。2005年から「豊かな菅野地域」をめざし、合言葉の「であい、つながり、げんき」を大切にしながら開催しています。らいとぴあ21を拠点とし、例年、千人規模の参加があります。食への屋台・遊びコーナー・まーがハロワーク（※1）、ステージでの活動発表や抽選会…と、子どもから高齢の方までがゆっくりと楽しみながら

がら過す秋の一日イベントです。そして、今年のサブタイトルは、「つながりを つづけよう」でした。

「コロナ禍でおまつりなどが相次いで延期や中止になった7月、このまつりの実行委員会を13団体で開催しました。まつりを実施すべきか悩みながらの集まりとなりました。実行委員会では、「感染者が出たらどうしよう」「責任をどこまでとれるのか」「この夏、季節行事に参加できなかったら子どもたちに、思い出になることを」「閉じこもりがちになる方々が、少しでも安心して参加



もくじ

らいとぴあ21
今年度も開催！

「かやのお宝人権まつり」

1

北芝地域

NHKテレビ番組『バリバラ』
に登場！

2

箕面市人権教育推進会議

・児童発達支援事業所

「あいあい園」の取り組み
について

3

イキイキさわやかに学ぶ会

・性の多様性を知る

～個性を尊重しあえる社会へ～

4

編集後記

6



できるものを「こんな時だからこそ、これまでのつながりと工夫で何かできないか…」など、検討を重ねました。

その結果、10月3日からの「1週間イベント」を作ることができました。できる限りの感染防止策をし、実行委員会の構成団体の日常活動の発表としての「展示」の数々、工夫された「スーパードールすくい大会」、「無観客ステージをオンライン配信する企画」が生まれ、それらの拠点をまわる形の「スタンプリリーと抽選会」が盛り込まれました。

特に、「スタンプリリーと抽選会」では、親子連れや高齢者の方々が散歩をしながら参加される姿が見られ、「気軽に楽しめました」「知らなかった所に行けて良かった」などコメントが寄せられました。

今回、手作りであたたかみあるイベントになったと感じます。「つながりをつづけよう」のフレーズは、来年へも光をおくる「まもの」になればと思います。



※1

☆まーぶハローワークについて☆

〈地域通貨「まーぶ」〉

- ・箕面市内で流通していることもも大人も使える地域通貨です。
- ・「まーぶ」とは、日常で使える一方、貯める事で自分の夢を叶えることができ、こども達の未来を応援するためのものです。
- ・100まーぶ＝1000円として、協力店舗やらいとびあ21の教育事業で使えます。

〈まーぶハローワーク〉

- ・箕面市内のイベント内や公共施設、ショッピングモールなどで開催するおしごと体験ゾーンです。
- ・自分で選んだしごとを体験し、まーぶを稼ぐことができます。
- ・「自分の未来のためになる」「誰かのためになる」とおしごと体験が準備されています。
- ・らいとびあ21のごどもの居場所では、いつでもお仕事体験(スタンプリ制、10スタンプリで100まーぶ)ができます。

☆詳細は、らいとびあ21にお問合せ下さい。

(らいとびあ21 吉田有里)

北芝地域

NHKテレビ番組『バリバラ』に登場!

みなさんは「バリバラ」というテレビ番組をご存知でしょうか？

『生きづらさを抱えるすべてのマイノリティ』にとつての「バリア」をなくす、みんなのためのバリアフリー・バラエティー』をコンセプトにNHK(Eテレ)で放送されている番組です。2020年12月にこの番組で箕面市の北芝地域のことが取り上げられました。ご覧になられたかたも多いと思います。

『Baribara×BURAKU×ブラクとの出会い方』(2020年12月10日)、『Baribara×BURAKU×人の世に熱あれ』(同17日)と題して二週連続で部落問題をテーマにした放送回でした。番組では過去にも『BLACK×N×BURAKU×アフリカンアメリカン』、被差別部落をめぐって『2020年2月の日、13日放送』と題して部落問題が取り上げられました(ここではアフリカ系アメリカ人の視点を交えて部落問題が再考されていました)。12月の放送はこの反響を受けての第二弾ということになります。



被差別部落に対していまだに存在する「こわい、危ない、行って(住んでは)はダメな場所」等のマイナスイメージ。そこから生まれる偏見や忌避意識が部落差別を助長し、また「なんとなく触れてはいけないこと」としてタブー視されることで一層の偏見や差別を助長する負の連鎖が生まれていく。これに対して北芝では「気軽に行ける、楽しいことがある、素敵な出会いがある」まちづくり、また「実際に訪れて、見て、知ってもらう」ことで「部落とのプラスの出会い」を通して偏見や忌避を解消していく(負の連鎖を断ち切る)姿が映し出されていたと思います。



実は、この番組収録、もともと北芝での公開収録を企画していました。箕面市で毎年開催されている『みのお市民人権フォーラム』とのジョイント企画として「ぜひ市民の方にも収録を観覧してもらい、部落問題について一緒に考える時間を」と考えていたのですが、新型コロナウイルスの感染拡大状況もあり、今回は公開収録を断念せざるを得ませんでした。番組収録は一本二時間を超え、スタジオで話されていたことがギュッと凝縮して放送されていましたが、あの空気感をたくさんのかたと共有できなかったことを本当に悔しく思います。

放送後も、番組で紹介されていた芝樂市などのイベントは開催自粛を続けていましたが、感染対策などを徹底した形での再開に向けて準備を進めています。一日も早く、みなさんとプラスの出会いができる日を心待ちにしています。

(暮らしづくりのネットワーク北芝 中村慎吾)



箕面市人権教育推進会議

人権教育推進会議は、有識者や市民、教職員等で構成され、箕面市における人権教育等について検討しており、この情報紙も編集しています。今年度は、小中学校での人権教育についての報告や箕面市の児童発達支援事業所『あいあい園』の取り組みについて講演がありました。

「箕面市の児童発達支援事業所

『あいあい園』の取り組みについて

◇令和2年10月7日(水)

◇講師 子どもすこやか室分室

吉田ひろえ分室長

児童発達支援事業所「あいあい園」は、市が運営しており、就学前の障害のある子どもや、何らかの支援が必要な子どもとその保護者を対象と

した事業所で、保護者同伴での通園となっています。先天性疾患や身体障害等で動きが少なく、援助や介助、医療的ケアが必要な子どものグループ、発達障害や知的発達の遅れ等がある子どものグループなど、子どもの状態に応じたグループにわかれて療育をしています。また運動会などの大きな行事は行わず、日々の決まった生活プログラムでの経験の積み重ねや、人との関わりを大切にしながら療育を行っています。

園では、子どもにとってわかりやすい環境づくりを行っています。身支度の手順などのめくり式カードや待つ場所の足形マット、スケジュールボードなどの視覚支援を用いて、次の行動の見通しが持てるようにしています。既成のイスでは着席が難しいとか、姿勢が保てない場合には、特製いすや箱椅子などを使うなど、子どもの状態に合わせ自助具なども用意をしています。

めくり式カード



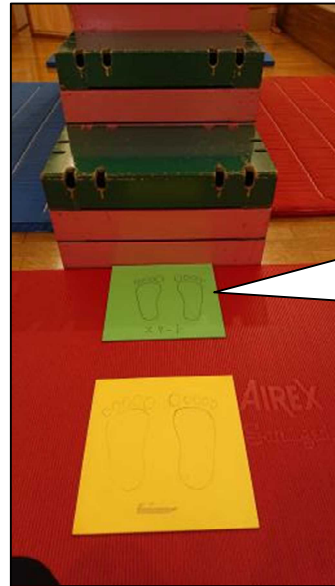
箱椅子



特製いす



足形マット



自由遊びでは、好きな遊びを自分で選ぶという自己選択の場面をたくさん作っています。遊びが見つけにくい場合は、玩具など遊びの写真をカードにして、自分で選ぶ経験を積み重ねられるようにしています。ほかに、体幹や手先、目を使う遊びなどはグループ全体でよくしている遊びです。遊びの中で、子どもの視線などから「もっとやりたい」という思いを感じたときや、友だちがしていることが楽しそうだけど「それをやりたい」と伝えられないときは、サインの出し方を伝えたり、大人が代弁し一緒に言ったり、そのやりとりを手伝うことで表出やコミュニケーションの意欲を引き出すようにしています。

自分で自由に体が動かせない子どもへの助也援助が必要な場面では、あらかじめ何をするかを伝え、子どもの反応や動きから気持ちを感じ取りながら、介助や援助を行なっています。そして、「うれしいね」とか「おいしいね」とか子どもの気持ちを言葉にしなが、受け身ではなく子どもが主体的に介助してもらおうということを大切にしながら進めています。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策で制限がありますが、子どもの療育中に、保護者は別室で学習会(年に数回)や保護者同士の交流会(月一回程度)など、情報交換の機会を設けています。保護者同士がつながることはとても有効なことだ、力になっていると感じているのことでした。

この報告の中で、たくさん視覚支援教材や自
助具などの紹介もありました。子どもの持つ力を
伸ばし、子どもやその家族が地域の中で安心して
暮らせるようサポートするという目的のために、
園が行っている様々な取り組みについて知る機
会となりました。

*

イキイキさわやかに学ぶ会

「イキイキさわやかに学ぶ会」は、市立小中学
校・幼稚園の保護者を対象に、身近な事柄を通し
て人権について考える学習会です。

「性の多様性を知る

～個性を尊重しあえる社会へ～

◇令和2年10月6日(火)

◇講師 大久保暁さん(暁project)

大久保さんは女性として生まれ、自分の性に違
和感を持つ心の悩みを抱えて生きてこられました
た。『普通』という言葉に何度も傷ついたそうです。
いろいろな人権課題は、そのことについて知らない
ために偏見や差別が生まれることも多いです。
だからこそ、LGBT、LGBTQ(※1)につ

いて、正しく知ることが大切なのだと話されました。

日本ではLGBTという言葉がよく使われ、4種類だけだと思われていますが、海外ではLGBTQやLGBTQ+（プラス）のほうが多く使われており、LGBT以外にもたくさん言い方があります。

また、LGBTとひとつにまとめて言われますが、LGBTにはふたつの概念があり、分けて考える必要があります。「どのような人を好きになりますか」という性的指向と、「自分の性別をどう思っていますか」という性自認です。性的指向については、多くのかたは異性愛者だと思えますが、異性愛者にもヘテロセクシャル（H）という呼び名があります。つまり、全ての人にそれぞれの性的指向の呼び方があるのです。

また、性自認においては、トランスジェンダー（T）以外にもクエスチョニング（Q）などがあります。クエスチョニングは、「自身の性が分からない」とか「揺れ動く人たち」をいい、未成年の子どもにも多いと言われています。

そして性には、体の性、思う性、好きになる性、表現する性の4つの要素があります。今は自分らしさを求められる時代になってきています。それぞれの表現の仕方があっていいのです。服装、しぐさ、言動を性別にとらわれず自分らしい表現を

※1

すべての人を含む概念 （講演資料より抜粋）

(Sexual Orientation and Gender Identity)

【性的指向】

- L**：レスビアン （女性の同性愛者）
- G**：ゲイ （男性の同性愛者）
- B**：バイセクシュアル （両性愛者）
- A**：アセクシュアル （無性愛者）
- P**：パンセクシュアル （全性愛者）
- H**：ヘテロセクシュアル （異性愛者）

SOGI
(ソギ・ソジ)

【性自認】

- T**：トランスジェンダー （心と身体の性が一致しない）
- Q**：クエスチョニング （わからない、揺れている）
- X**：エックスジェンダー （中性・両性・無性など）
- C**：シスジェンダー （思う性と体の性が一致）

※LGBTとは性的少数者の連帯を表す言葉
LGBTQ、LGBTQ+ と使われる

する生き方を選ぶ人もいます。人はよく見た目だけで男性だ女性だと判断してしましますが、自分のセクシュアリティを決めるのは、その人自身なのです。

LGBTQのかたは、約11人に1人と言われています（※2）。ということは、クラスにもご近所にもご家族にもいるかもしれません。身近にいると意識して生活をし、だからこそ傷つける言葉を使わないことが大事のことです。世界では、約30か国が同性婚を認めています。街中で男性同士や女性同士がベビーカーを押ししている光景があ



るそうです。また、日本のLGBTQのかたの自殺率は、そうでないかたの6倍と言われています。自分はこの国で認められている、この国で生きていいという自信や将来の希望を持つことができ、日本もすべての人が生きやすい社会になるよう、同性婚を認めないといけないと、大久保さんは話されていました。

もし、身近な人からカミングアウト（※3）されたときには、否定せず、「言ってくれてありがとう。他の人には話さないからね。何か出来ることはある？困っていることはない？」と、まずは自分を信頼して話してくれたことに感謝し、相手を

認め、寄り添う気持ちで傾聴し、いい関係を築き
ましょう。そのためにも、「LGBTQについて理
解し支援をする人『ALLY(アライ)』」になって
いただき、日頃の会話の中でとんとん話をして可
視化していただきたかったことでした。

*

「異性愛者が前提の社会ではない」「自分の当た
り前はみんなの当たり前ではない」その言葉に、
多様性を認め合うことが誰もが生きやすい社会
につながるのだと改めて実感した勉強会でした。

※2 『LGBT調査2018』(電通ダイバ
ー・ラボ)

※3 公表すること。人に知られたくないこと
を告白すること。(大辞泉)



【訂正のお詫び】

50号のものと及び5ページの「司書コーナ
ー」の表記を次の通り訂正いたします。謹んで
お詫びを申し上げます。

誤 司書コーナー

世界を広げるおはなしシャワー

正 司書コーナー

☆編集後記☆ 令和2年度の「イキイキさわやかに学ぶ会」は、人数制限をもうけて
の対面開催や、オンライン開催という形で実施することができました。今後も「はじ
けるこころ」で紹介し、学びを共有したいと思います。

執筆や編集等にご尽力・ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。
次回以降も、人権に関わる様々な話題を学校園や地域の皆さまにお伝えします。



「はじけるこころ vol.51」はいかがでしたか？

みなさんのご意見・ご感想をお聞かせください。下記の①～④の内容を、郵送、ファクスまたは
Eメールにてお送りください。これからも人権教育に関心をもっといただける記事を掲載したいと
思っておりますので、ぜひともお言葉をいただけることを編集委員一同お待ちしております。

記

- ①ご意見・ご感想、②お名前（無記名でも構いません）、③「はじけるこころ」の入手方法、
- ④（「はじけるこころ」に掲載する場合がありますので）ご意見・ご感想掲載の可否について

〒562-0015 箕面市稲 1-14-5 箕面市教育委員会人権施策室

FAX : 072-725-8360

Email : edujinken@maple.city.minoh.lg.jp